

## 第3章 地域の特性を活かし、産業活力と賑わいがあるまち

### 1. 農林水産業

#### 《基本方針》

立地条件を活かし、生産基盤の整備や担い手の育成に努めながら、付加価値が高く収益性の高い農林水産業を育成します。また、農林水産業と商工業や観光との連携を図り、地域資源を活かした産業の活性化を促します。

#### 《現状と課題》

- わが国の農林水産業をめぐる、近年では、従事者の確保や遊休農地対策などが課題になっています。一方では、土地の保全など農林水産業の持つ多面的な機能が改めて注目され、また ICT を活用したスマート農業など、収益性向上に向けた取組も全国的に進められています。
- 本町は、農業に適した自然条件に恵まれた地域であり、水稻を中心に、スイートコーン、ネギなどの栽培や、養豚・酪農等の畜産も盛んです。現在では、農地を集積し大規模化を図る者等、農業経営者による様々なチャレンジがなされています。
- しかしながら、担い手の高齢化と後継者不足、遊休農地の増加など、農業をめぐる環境は依然として厳しいものがあります。今後は、地域農業の将来像を明確にするための「地域計画」に基づき、農地の集積や農業基盤整備に努めていく必要があります。
- 併せて、本町ならではの地域資源を活用しながら、農業と商工業の連携による商品開発や、農業と観光事業との連携による取組などを促していくことも重要です。食肉センターについては、施設の著しい老朽化に対応するとともに、HACCP に沿った衛生管理に努めていくことが必要です。



産業まつり



地域農業懇談会



《施策》

施策1 生産振興と経営支援

「地域計画」に基づき、担い手の育成・確保に努めるとともに、農地集約を図ります。また、農業振興地域整備計画に基づき、生産基盤の整備や優良農地の保全などを進めます。さらに、経営者の創意工夫による新たな品種・品目の導入支援を通じ産地化を促します。

家畜伝染病対策や家畜環境対策など畜産農家を支援するとともに、森林組合等関係機関と連携をとり適正な森林の整備・活用を支援し、加えて、漁業関係機関と連携を図り各種事業を支援します。

このほか、食肉センターの健全な運営を保つため適正な維持管理に努めます。

施策2 特産品のPRと消費の拡大

地産地消の取組とも連携しつつ、地場産品の販路の確保、集荷・流通経路の確立を促していきます。また、特産品の販売などや観光交流の拠点となる施設の設置については、ソフト（運営など）とハード（施設建設など）の両面から検討を進めます。

さらに、商工会をはじめとする関係団体や事業者などと協働し、農業と観光や商工業との連携による地域ブランド創出を図ります。

施策3 地域資源の活用と環境との共生

農林水産業が持つ多様な機能に着目し、農地や山林、河川や海浜など、地域資源の適切な保全に努めます。また、異常気象による環境に配慮した農業を推進するとともに有機農業を推進し、農業生産に由来する環境への負荷軽減に努めます。

《成果指標》

成果指標	現状値	目標値(2029年度)
担い手に対する農用地の集積率	14%	24%
多面的機能活動組織	15 組織	17 組織

■関連する分野計画

農業振興地域整備計画	2023（令和5）年度～概ね10年後
地域計画	2026（令和8）年度～2034（令和16）年度
地産地消・食育推進計画（第4次）	2022（令和4）年度～2026（令和8）年度

## 2. 観光

### 《基本方針》

地域産業の活性化のため、栗山川、九十九里浜といった自然資源や、地域に根差した歴史・文化的資源を活用しながら、多様な主体の協働のもとに観光の活性化を図ります。

### 《現状と課題》

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、観光をめぐる環境は極めて厳しいものとなりましたが、近年では、訪日外国人観光客が著しく増加するとともに、日本人観光客も回復傾向にあります。
- 本町では、地域の自然や歴史・文化的資源を活かした観光イベントが行われており、初日の出、栗山川の釣り、坂田城跡の梅まつり、サーフィン、鬼来迎等の伝統行事などが、観光客を集めています。また、本町は、一般社団法人横芝光町観光まちづくり協会の設立や横芝駅前情報交流館「ヨリドコロ」の整備、アウトドア企業との広域観光連携などにより、観光事業推進に向けたソフト・ハードの環境を整えてきました。
- 今後は、観光まちづくり協会を中心として、町の基幹産業である農業と観光との連携や事業者の連携を促し、観光まちづくりを推進する基盤の充実に努めていく必要があります。また、横芝駅前情報交流館「ヨリドコロ」を拠点とした本町ならではの観光情報の発信に努めていく必要があります。
- 本町には、栗山川、九十九里浜といった自然や、地域に根差した歴史・文化といった魅力的な観光資源があります。今後は、AI やデジタルなどの新技術を活用した新たな観光のあり方等を検討しながら、さらなる地域資源の掘り起こしや、自然や歴史文化に関わる各種団体との連携の強化に努めていくことが重要です。さらには、広域交通の利便性を活かした滞在型ツーリズムやアウトドアツーリズム、インバウンド観光の促進などに努めていくことも大切です。



梅まつり



ゆるキャライベント



《施策》

施策1 観光基盤の充実

横芝光町観光まちづくり協会をはじめとして、事業者や関係団体などの連携を促します。また、町の基幹産業である農業と観光との連携を促し、本町ならではの魅力の発信に努めます。さらには、観光情報の発信拠点となる横芝駅前情報交流館「ヨリドコロ」を有効に活用し、にぎわいを創出します。

施策2 観光資源の活用・開発

海や川などの地域資源をつなぐ観光周遊コースを活かし関係団体との連携のもと、田園や水辺を活かした滞在型・体験型ツーリズムの振興などを図ります。併せて、地域資源を活用しながら魅力的な観光商品の開発などを促していきます。

施策3 観光企業の誘致

拠点地域の有効活用が進められている銚子連絡道路横芝光 IC 周辺や横芝海のこどもの国跡地周辺など観光企業を誘致し、新たな交流人口を拡充します。

《成果指標》

成果指標	現状値	目標値(2029 年度)
観光入込客数	85,000 人	90,000 人
観光企業の誘致	0 箇所	2 箇所

### 3. 商工業

#### 《基本方針》

成田国際空港への近接性や、広域的交通の利便性などを活かし、意欲ある若手人材を育成しながら、地域特性を踏まえた商工業の振興を図ります。

#### 《現状と課題》

- 地方の活性化に向け、商工業には、地域の稼ぐ力としての期待が集まっています。しかしながら、人口減少と少子高齢化が進み、材料費や光熱費などの高騰も続く中で、担い手の不足や経営の悪化等が顕著となるなど、地域の商工業事業者を取り巻く環境はますます厳しいものとなっています。
- 本町では、地元商業の活性化を目指し、商工会などと連携して人材育成や経営力強化、事業者の共同事業活動「駅前マルシェ」などを支援してきました。また、新たな商業活動の促進に向け、商工会が復刻した大木式ハム・ソーセージの開発・PR活動等を支援してきました。今後も、商工会などとの連携のもとに、意欲ある事業者の支援などに努めていく必要があります。
- 工業の振興については、制度融資などを活用し経営安定に向けた事業者の取組を支援するなどしています。成田国際空港に近接する立地条件や、広域的交通利便性の向上がもたらす可能性を活かし、意欲ある若手人材を育成しながら、地域特性を踏まえた工業の振興を図っていくことが重要です。



駅前マルシェ



《施策》

施策1 商業の振興

商工会をはじめとする関係団体と連携しながら、人材育成や経営基盤強化などを促します。また、商業機能の充実を図ります。

施策2 工業の振興

商工会をはじめとする関係団体や事業者などと協働し、製品開発や技術開発の支援、関連情報の提供などを行います。

《成果指標》

成果指標	現状値	目標値(2029年度)
駅前商業イベントでの参加事業者数	8 事業者	10 事業者

## 4. 産業活性化

### 《基本方針》

千葉県や町商工会など関係機関や団体との連携を図りながら、企業誘致に取り組むとともに、起業・創業に向けた支援などを行います。また、雇用と就労の機会づくりを促進します。

### 《現状と課題》

- わが国全体における人口減少と少子高齢化が問題となる中、雇用の創出が大きな課題になっています。デジタル技術の活用などを前提とした働き方の変容、企業立地の自由度の拡大なども背景として、雇用創出に向け、国・地方自治体は企業誘致や起業・創業支援等に取り組んでいます。
- 千葉県では、成田国際空港の更なる機能強化や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の整備をはじめとする道路ネットワークの充実・強化により、高まる空港周辺地域のポテンシャルを生かし、成田新産業特別促進区域（成田空港周辺9市町の行政区域）において、空港の機能と一体的に利用される物流施設の整備等を通じて、成田国際空港を核とした国際的な産業拠点を形成することを目的として、成田空港周辺9市町とともに、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律（地域未来投資促進法）に基づく「成田新産業特別推進区域基本計画」を策定しました。
- 本町では、新たな事業展開や起業・創業の促進に向け、商工会などと連携して、起業、事業承継等を契機とした第二創業に向けた情報提供などを実施してきました。今後も引き続き取組を展開して、起業・創業などを促していくことが重要です。
- 本町では、就業・雇用の促進に向け、商工会、事業者、ハローワーク千葉と連携しながら、就労情報、職業能力向上に向けた情報などを発信しています。今後は、AI・デジタルなどの新技術の活用などを前提とした働き方の情報提供や環境整備などにも努め、雇用と就労の機会づくりを促進する必要があります。



横芝光 IC 周辺開発事業構想図



《施策》

施策1 企業立地の促進

企業誘致のための土地や建物の情報を把握し、希望する企業への情報提供に努めます。また、千葉県などと連携し、成田国際空港への近接性や広域的交通の利便性といった産業立地の魅力を発信しながら、町独自の奨励措置を講じて企業誘致を促進します。それらの受け皿となる新たな産業拠点として、銚子連絡道路横芝光 IC 周辺に産業団地を整備します。

施策2 新たな事業展開や起業の促進

商工会、事業者などと協働しながら、人と情報のネットワーク化等を促しつつ、起業や事業承継等を契機とした第二創業支援を活性化します。また、多様な主体の共同参画による新たな事業開発を促進します。

施策3 就業・雇用の促進

千葉県・関係機関との連携のもと、職業能力の育成を促すとともに、就労情報の提供とマッチングを行います。また、すべての人が働きやすい環境づくりのため、事業者における子育て支援や、AI・デジタル技術の活用などを促進します。

《成果指標》

成果指標	現状値	目標値(2029 年度)
産業団地の整備	0箇所	1箇所
創業者数	6人	6人
就業支援セミナー等の実施回数(累計)	2回	8回

## 5. 交流・移住・定住

### 《基本方針》

本町の人口減少を抑止していくため、誰もが住みやすいまちづくりを推進し、町の情報や魅力を分かりやすく伝え、交流を促すとともに、移住・定住者を増やします。特に、将来を担う若者の転入促進と定着を図ることで、地域の活力を維持します。

### 《現状と課題》

- わが国では、若者・女性を中心として、地方から首都圏へと人口が流出し続けてきました。現在では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などを契機としてデジタル技術を活用した働き方が浸透する中、居住地選択の自由度が拡大しており、地方への移住・定住への関心も高まりをみせています。また、国は、地方の活力維持に向け、首都圏などの人々が仕事や観光等によって地方を訪れる関係人口の創出を促進しています。
- 本町は、成田国際空港に近接するだけでなく、栗山川、九十九里浜といった自然資源、寺社やお祭りといった歴史・文化的資源も豊富であり、関係人口の創出に向けた条件が整っています。今後も、地域資源を活かした催しの開催などを通じ、まちを訪れ、交流する人々の増加を促していく必要があります。
- 本町の場合、進学や就職のために町外へ転出する若者が多く、将来の人口減少と地域の活力低下が危惧されています。そこで本町では、LINE やXなどの SNS や「ヨリドコロ.jp」、「横芝光町マスコットキャラクターよこぴー」などによりローカル情報を発信するとともに、移住・定住に向けた総合的な相談窓口として「移住定住サポートセンター」を設置しました。
- 広域交通の利便性や、自然、歴史・文化、子育て施策の充実など、本町の魅力を活かしたシティプロモーションに取り組んでいます。また、民間事業者と連携し、旧横芝中学校プール跡地を活用することにより、移住子育て世帯住宅「ヨコシバテラス」を整備し、子育て世帯の移住を促進しています。
- 今後も、受け入れ体制の整備やまちの魅力発信、シティプロモーションに引き続き取り組むことにより、本町への移住者やUターン者の増加を促すとともに、定住を促進していく必要があります。



移住定住プロモーションポスター



《施策》

施策1 移住・定住への支援

移住・定住を促進するため、移住定住サポートセンターを中心に相談機能を充実します。また、移住者が地域に馴染みやすいよう、移住後もサポートセンターを中心に地域とつながりを持てる機会をサポートします。

施策2 積極的な町の魅力発信

住民との協働のもと、まちのイメージ向上やブランド化に向けた戦略的な取組を進め、優れた地域資源や住みやすさを積極的にプロモーションし、体験の機会をつくります。

《成果指標》

成果指標	現状値	目標値(2029年度)
サポートセンターを利用した移住定住の相談件数(累計)	250件	500件
若年層のふるさと回帰の促進 (20~29歳世代の4年前と比較した人口維持率)	85.45%	86.45%